



22 歯原性角化嚢胞

Odontogenic keratocyst

(旧分類：角化嚢胞性歯原性腫瘍)

概 説	再発や癌化を示すことがある。
由 来	歯堤上皮(歯原性)
好発部位	下顎第三大臼歯部から下顎枝部(顎骨内)。
好発年齢	10~30 歳代
組 織 像	重層扁平上皮と上皮下結合組織からなる 2 層性構造。 上皮の角化：錯角化 上皮下結合組織内：娘嚢胞や歯原性上皮島が認められることがある。 嚢胞内容物：オカラ(角化物質)。 埋伏歯冠を含むことがある(約 9%の症例)。
再 発	娘嚢胞や歯原性上皮島が存在することがあるため再発傾向が強い。
悪 性 化	まれに癌化する(顎骨中心性扁平上皮癌)。



きわめて単純な組織像である，絶対間違っってはならない。組織学的には表層の錯角化を探し，部位が顎内であることを確かめること。

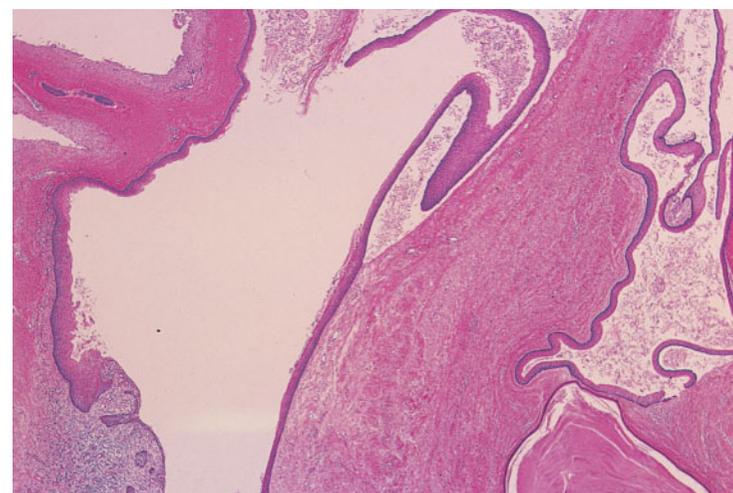
歯原性角化嚢胞と同様の組織像の病変が軟組織に発生したら，類表皮嚢胞または歯肉嚢胞であることを知っていましたか？ また，歯原性角化嚢胞もエックス線的に歯を含む場合があるが，含歯性嚢胞の上皮は角化しない。



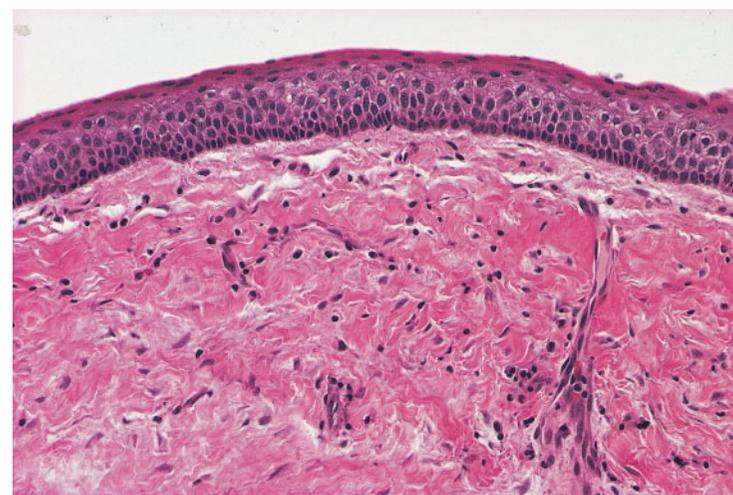
顎内発生を確認後，**錯角化**を探すこと。

同様の組織像でも部位が異なれば診断名が変わる。

- 関連事項：1) **基底細胞母斑症候群**は，常染色体優性遺伝で，多発性に歯原性角化嚢胞が発生する。その他，前頭部の突出，両眼隔離，大脳鎌の石灰化，手掌の点状小窩，皮膚の多発性母斑性基底細胞腫，骨の異常(二分肋骨，脊柱後側彎，脊柱披裂)が認められる。
- 2) 正角化を示す顎内嚢胞は正角化性歯原性嚢胞として取り扱う。



娘嚢胞が存在する



錯角化・重層扁平上皮

数層の細胞からなる

線維性結合組織